

廖承志研究会第六回研究会

日時：2012年2月19日（14：00～17：00）

場所：東京大学駒場キャンパス 18号館 4階 コラボ 4

参加者：王雪萍（東京大学）、井上正也（香川大学）、杉浦康之（防衛研究所）、大澤武司（熊本学園大学）、劉建平（中央大学）、山影統（早稲田大学）、戴振豊（東京大学）

研究報告：

報告者：戴振豊（中華民国国家科学委員会、東京大学）

報告題目：「LT貿易協定と廖承志訪日に対する中華民国の対策（1962～1973）」

司会：王雪萍（東京大学）

報告内容：

戴氏より、戦後日中関係に対する中華民国（以下、台湾）の対策についての報告がなされた。大きな時期区分として、LT貿易協定と日中国交正常化に伴う廖承志の訪日を設定して、日台断交以前と以後における日中関係の発展に対する台湾の政策の分析を行った。

LT貿易協定期間は、台湾は正式な外交として、外交部が交渉を行った。さらに、蒋介石が吉田茂宛に個人的に連絡を取るなどして、日本のプラント輸出の際の日本の輸銀による延べ払い方式に反対した。また、工作人員による活動も活発に行い、日台貿易関係を制限した。こうして、台湾は日中関係がそれ以上発展に歯止めをかけたという点で、成功といえる。

しかし、日台断交以降は、廖承志の訪日に対して、東亜関係協会東京弁事処をはじめ、さまざまなアクターが日本の各部門に反廖承志の呼びかけを行うが、日中関係の進展に歯止めをかけることはできなかった。

質疑応答では、台湾の対日工作人員に関する質問を中心に、50年代から70年代までの台湾の台湾の対日政策について幅広い議論がおこなわれた。